

旭川医科大学社会的インパクト創出プロジェクト 選定審査の結果

令和6年7月10日

旭川医科大学学長 西川 祐司

【応募状況】

学内公募に対して8件の応募があった。

(内訳) 基礎医学:2件 臨床医学:4件 学内共同利用施設:1件 病院診療科:1件

【審査結果】

書類審査は、大学運営会議の構成員で利害関係を有する者を除く全員で行った。採点は20個の評価項目を設けて5～1点の評点を付し、100点を満点とした。プロジェクトにより採点する審査員数が異なることから、平均評点により比較を行った。

書類審査の平均評点は次のとおりである。

評点順	1.事業の構想			2.事業の実現可能性	3.実施計画	総合評点平均
	(1)全体構想の優秀性	(2)社会的インパクト	(3)達成目標・アウトプット・アウトカム(評価指標)			
1	19.88	14.88	14.25	18.13	6.75	73.88
2	19.00	15.13	12.13	17.63	6.25	70.13
3	17.71	13.71	13.14	15.71	7.14	67.43
4	17.56	13.00	12.33	16.00	6.44	65.33
5	18.22	12.78	12.44	15.22	6.00	64.67
6	15.33	11.78	11.44	14.44	5.22	58.22
7	13.78	12.22	9.33	10.67	4.67	50.67
8	13.11	10.78	8.78	11.89	4.56	49.11

面接審査は、書類審査で総合評点平均が上位だった5件を対象とし、大学運営会議の構成員で利害関係を有する者を除く全員で行った。事業の構想、実現可能性、実施計画の評価は書類審査の評価と合致していた。

合議審査は、大学運営会議の構成員で行った。選定事業に対して今後成果の実現に向けて全学的な支援を行っていくため、構成員が利害関係を有している場合も審査員として審議に加わることとした。面接審査と書類審査の結果を鑑み、次のとおり支援することとした。

- ・評点順第5位までのプロジェクトに対し、令和6～9年度において全学的な支援を行う。
- ・令和6～7年度において、評点第1位及び第2位のプロジェクトについては申請額の100%を予算配分し、評点第3位、第4位及び第5位のプロジェクトについては申請額の70%を予算配分する。
- ・令和8～9年度の予算配分額については、令和7年度中に実施する中間評価の結果によって決定する。

【選定プロジェクト】

1. プロジェクト名:有益微生物由来分子を用いた新規難病・癌治療薬の社会実装
事業責任者:内科学講座消化器内科学分野 教授 藤谷 幹浩
支援額:申請額の100%
2. プロジェクト名:三大動脈硬化症の重症化予防及び重複動脈硬化症の捕捉に向けた循環細胞外小胞内マイクロRNAのバイオマーカー創出事業
事業責任者:外科学講座血管外科学分野 講師 菊地 信介
支援額:申請額の100%
3. プロジェクト名:脈管研究クラスター(AMU-ARC)の更なる連携を促す新規研究の立上げと持続的運営体制の構築
事業責任者:生化学講座 教授 川辺 淳一
支援額:申請額の70%
4. プロジェクト名:難治性寄生虫症の新薬開発と感染対策推進事業
事業責任者:感染症学講座寄生虫学分野 准教授 伴戸 寛徳
支援額:申請額の70%
5. プロジェクト名:希少疾病用医療機器(オーファンデバイス)の研究開発事業
事業責任者:先進医工学研究センター 教授 武輪 能明
支援額:申請額の70%

【支援総額】

令和6年度:36,390千円

令和7年度:37,720千円

令和8~9年度:令和7年度中に実施する中間評価の結果によって決定する。

【講評】

申請のあったプロジェクトの事業計画はいずれも新規性を有し社会的インパクトの創出を目的とした優れた取り組みでした。審査において補助対象期間である令和10年3月31日までに社会的インパクト創出のエビデンスを提示できるかどうかをポイントに評価、選定を行い、上記の結果となりました。プロジェクト自体の優劣ではないということを、ここに申し上げます。今回の選に漏れたプロジェクトに対しては、大学として別の形で支援していくことができないか、今後検討して参りたいと考えています。

今回の学内公募にご申請いただいた皆様に心から深い敬意を表するとともに、今後の更なる進展を期待いたします。